

国語

(2月3日)

開始時刻 午後1時00分
終了時刻 午後2時00分

注意事項

- 1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は17ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあつた場合には申し出てください。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
① 受験番号欄
受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
② 氏名欄
氏名とフリガナを記入してください。
4. 解答は解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、10 と表示のある問いに対して ◎と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の◎にマークしてください。(例)
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

もしも、生まれたときから他者に会うことがないという特殊な境遇にあれば、友達とは存在しえない。もし他者がいなければ、友達とは存在しえない。か認識できない。本などを読まないが、友達という言葉の意味もなくなるだろう。この場合、孤独というものを感ずるだろうか、と想像してみよう。

おそらく、生まれてからずっと一人で育つた人間は、(家族はいるかもしれないが)友達というものを感ずる経験がないのだから、それがいい状況が欲しいとは思わないはずである。①外部を知る機会が(本やTVなどを通して)あれば、その楽しそうな雰囲気を持ちつてもいい。しかし、それは文字通りの「憧れ」であり、単にその情報の中で、それが素晴らしいものだと言われているのを聞き流しているだけだ。対比して、自分の境遇を悲観するまでにはなかなか至らないのではないか。それはたとえば、子供のときに「月面旅行」の絵本を読もうとしたとき、自分の月面に立てないかという希望を持つことはあっても、現在それが自分からといって孤独を感じたり、寂しく思ったりはしない、と僕は思う。

それは家族であつても同じことで、生まれたときから父親がいなく、という場合であつても、それほど寂しさは感じないのではないか、と思える(周りのみんなが「寂しいね」と無理に教えることで、寂しさを感じることはあるだろう)。

ただ、母親だけがいないように感じる。人間にも本能があるからで、「なにか母親のような存在」に甘えたいという自然の欲求を持っているはずである。これは、人間以外の動物にも観察されるもので、初めて見たものを母親だと思ひ込むとか、幼いときにはどんな動物でも基本的に友好的であり、また、見た目が可愛らしく見えるようにできている(これは、Xの意味も含む)。母性本能という言葉があるとお

りだし、逆に、母親を求める本能(命名されているのだろうか)もあるはずである。ほ乳類であれば、母親から乳をもらうわけだから、生きるために必要な本能に近いものだろう。もし母を見失えば、それは「寂しい」とか「悲しい」ところではなく、自分の死に直結する「恐怖」になるはずだ。

こうして、少し考へてみると、孤独や寂しさを感じるのは、ただ仲間がいなく、というだけの状況からだけではない、それ以前に、仲間の温もりと、友達と交わる楽しさというの、寂しさを知覚していることが前提条件となっている。もう少しわかりやすく、孤独が表れるのは、Yなのである。

友達がなくて寂しい、というのは、友達と過ごすことの楽しさを知っていて、それができなくなった場合に生じる感情だ、ということ。寂しさ

1-1

いものが、そもそもそういった変化(陥落)を示したのだともいえるかもしれない。ただし、本能的なものは除外する必要がある。たはかりの赤子が、乳欲しさに泣くのは、寂しさと解釈できなくもないが、それは今話している孤独とは、歴然と異なるものと区別して良いだろう。

では、仲間を失うことが、何故寂しいのか?

仲間から選ばれることが、生存の危機を意味しているために、寂しさというマイナスの感情として知覚されるのか。もしそれが基本としてあるならば、やはり、群れを作るといって本能的なものに根ざしているだろう。しかし、現代では、一人になることが即生存の危機というケースはほとんどない。周囲の人間から見捨てられても、子供でないかぎり、充分とはいえないまでも生きていくことができる社会が実現している。ただし、生存への危機感が寂しさの感情をジョウチヨウとするという効果は馬鹿にならないかもしれない。ようするに、自身の勝手な想像であつても、それが自分を苦しめるということはある。子供が仲間から拒めを受けた場合などは、生存の危機のようなものを本能的に感じる可能性があつて、大人になつても、そういった体験に基づいた感情が残つているようにも思えるからだ。

さらに言えば、まず友達があつて、それを失つたときに感じるものだと、定義を限定してしまつたら、これに当てはまらない例があることに気づく。友達を全然知らなければ、孤独は感じない、に近いことを書いたし、本やTVで見たものは憧れにしかならない、と書いたが、たとえ仮想の経験であつても、自分の身近な同輩の他者たちの行動になると、感情移入によってリアルさがカタクタンに増している。TVドラマなどをリアルな世界として真に受ける子供もいるかもしれない。つまり、経験のリアルさは、個人によって非常にレベルが異なるだろう、ということだ。

自分が妄想をして、なんとなく友達になれそう、という状況を想像経験することもあつてはならないか。相手にはそのつもりは全然なくても、一方的に友達だと思ひ込んでしまうことは、子供には珍しくない、特殊なことでもない。だから、そういった仮想の認識が、本人にとつて現実に近いものに知覚される可能性は大いにある。そうだとしたら、それらも含めなければならぬ。

いずれにしても、寂しいという感情は、「失つた」という無念さのことだ。また、その失つたものが、「親しさ」であれば、それがすなわち「孤独」になる。

失うことが寂しいのも、そのルーツは生存の危機だろう。⑤ただ、自分のもの、自分の時間などが、失われたときの喪失感というのは、寂しさや悲しさの正原因となる。これは、取り返しが比較的簡単なほどダメージが小さく、逆に、もう二度と取り返せないと思われる場合は、精神的にも大きなジョウチヨウケキとなる。

(森博嗣「孤独の価値」による)

問一 傍線部ア～ウを漢字表記に改めた場合、これと同じ漢字を用いるものを、次の各群の①～④からそれぞれ一つを選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが1、イが2、ウが3。

- ア ジョウチヨウケキ
a チヨウチヨウケキは払わぬ
b 胃腸のチヨウチヨウケキが悪い
c チヨウヘン小説を読破する
d 話がチヨウチヨウケキしている
e 会費をチヨウチヨウケキする
イ カクタン
a 国交をカクタンセツする
b グリガイ裁判にかける
c グリガイの世に生まれる
d 文章をカクタンクに分ける
e 三月はカクタンクの差が激しい

- ウ ショウゲキ
a ここは海上交通のヨウシヨウだ
b 鳩は平和のショウチヨウだ
c ショウタイ客が集まり始める
d 下取りの値段をコウシヨウする
e カンシヨウ的な旅を見せる

問二 傍線部A～Cの場合、孤独というものを感ずるだろうか、とあるが、この問いに対する筆者の考え方として最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は4。

- a 友達を持つことの必要性がそもそもないため、孤独を感じることはない。
b 友達を持つことに憧れを抱くことはあつても、孤独を感じることはない。
c 友達を持つことに憧れを抱くことになれば、孤独を感じるようになる。
d 孤独という言葉の意味を知ることができれば、孤独を感じることもできる。
e 孤独という言葉を知つたとしても、その意味を理解することができない。

3-1

2-2

問三 傍線部B「今の自分が月面に立てないからといって」とあるが、「月面に立てない」とはどのようなことをたどっているのか、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は [5]。

- a 家族が目の前に黙然と存在すること。
- b ずっと二人でいることに慣れていること。
- c 自分が友達というものがいないこと。
- d 友達がいないということを知らないこと。
- e 寂しさを感じないで生きていること。

問四 本文中には次の文が脱落している。この文が入る箇所として最も適切なものを、後の①～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は [6]。

答番号は [6]。

- a [1]
- b [2]
- c [3]
- d [4]
- e [5]

— 4 —

問五 空欄 X に入る表現として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は [7]。

- a 見た目が可愛くなくとも可愛く見せる
- b 見た目が可愛いと捉える感覚を持っている
- c 見た目が可愛くても本当はそうではない
- d 見た目が可愛いのは幼い時期に限られる
- e 見た目が可愛いのは人間だけに限らない

問六 空欄 Y に入る表現として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は [8]。

- a 友達がいけない状態からの陥落
- b 交友の欠如した状態への陥落
- c 孤独を知らない状態への陥落
- d 孤独ではない状態からの陥落
- e 前提条件のない状態への陥落

問七 傍線部C「生まれたばかりの赤子が、乳飲しさに泣くのは、寂しさと解釈できなくもないが、それは今話している孤独とは、歴然と異なるものと区別して良いだろう」とあるが、どういうことか、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は [9]。

- a 生まれたばかりの赤子には友達とは何かという知識があるはずなので、ここで問題にしている孤独を感じようがないということ。
- b 生まれたばかりの赤子は母親さえいれば寂しさを感じることはないで、たとえ友達がいなくても孤独を感じることはないということ。
- c 生まれたばかりの赤子が泣くのは母親慈しさであって、友達を求めて泣いてはいるわけではないので、孤独であるとは言えないということ。
- d 生まれたばかりの赤子が泣くのは本能的なものであって、楽しさから陥落したわけではないので、それを孤独と呼べないということ。
- e 生まれたばかりの赤子は寂しさかどういともか理解できないので、大人のように孤独を感じるなどでははないということ。

— 5 —

問八 傍線部D「目の中の「ない」のうち、助動詞の「ない」を含むもののみの組み合わせを、後の①～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は [10]。

- D 充分とはいえないまでも
- E これに当てはまらない例がある
- F 孤独は感じない
- G 子供には珍しくない
- H もう二度と取り返せない

- a D・H
- b D・E・H
- c D・E・G・H
- d D・E・F・H
- e D・E・F・G・H

— 6 —

二 次の文章を読んで、後の問一～六に答えなさい。

人間どうしの関係と同じく、生物どうしにも多様な関係が見られる。それはドラマのように、その生物の好みや都合、脇役となる他の生物との利害関係によって、複雑に、そして、ダイナミックに展開していく。

学校で、アリとアブラムシの共生関係の話を習った人も多いと思う。アブラムシは植物の汁を吸い、お尻から甘い甘露を出す。アリはその甘露をもろう代わりにアブラムシを外敵から守り、キブ・アンド・テイクの共生関係が成り立っているという話だ。

アブラムシが吸っている植物の汁には、アミノ酸などのほかの栄養素に比べ圧倒的に糖分が多い。アブラムシにも必要な栄養のバランスというものがあるので、摂りすぎた糖分は排泄物（甘露）としてほとんど捨ててしまう。それをアリはご馳走になっている。アリは甘いものが好きで、おまけに自分たちの餌場に入ってくるものを排除する性質がある。当然、アブラムシの天敵も排除してくれるので、アブラムシにとってアリは頼れる用心棒となる。同じように植物のなかにも、花以外にも甘い蜜を出してアリを呼び、自分を加害する害虫から守ってもらうものがある。たとえば、ソラメヤカラスノエンドウ、カラスノエンドウは、春によく見るマメ科の雑草で、豆の鞘を筒にして遊んだ人も多いことだろう。これらの植物は、よく見ると葉の脇に花外蜜腺という蜜を出す器官を持っていて、アリを呼んで、害虫を排除してもらっている。

しかし、同じようにアリとの共生関係を持つといっても、植物の汁を吸うアブラムシと、植物は敵どうしである。とくに小さな草本の植物は、多くのアブラムシにとりつかれて汁を吸われると、すぐに枯れてしまう。蜜を出す植物に甘露を出すアブラムシがついた場合、本来は敵どしとの両者が同じようにアリを呼んで自分を守ってもらうとすると、どうなるだろう。それぞれが甘い汁で呼び寄せたアリは、アブラムシを排除して植物を守るだろうか？ [1]、アリはアブラムシを守り、アブラムシは増え続け、植物は枯れてしまうのだろうか？ どちらに転ぶかは、植物とアブラムシにとっては重大な問題である。

その結果を考えるには、まずアリの生態を知っておく必要がある。アリにも好みがあるし、必要な餌の種類もある。アリとしては、できるだけよい餌をコウリツ的に摂りたいところだ。どうせ守るなら、蜜は好きにあつたほうがいいし、最もじゅうぶんにも提供してくれる蜜源がいい。

だから、同じ場所に複数の蜜源があれば、アリは使い勝手のいい好みの蜜源を選んで、他の蜜源は利用しなくなる。 [2]、利用しないアブラムシは、逆に、排除したり、殺して食べてしまったりする。アリには糖分のほかに動物性の蛋白質も必要なので、アブラムシを巣に運んで幼虫にやるとよい餌になるわけだ。このように、アリは、自分たちの都合に合わせて、一番いい餌を守り、それ以外のものを排除する。

というところは、蜜を出す植物と甘露を出すアブラムシがついた場合、どちらの出す蜜がアリに好まれるかで、植物とアブラムシの運命が決まってしまう。

— 7 —

まう。アブラムシの甘露が好まれた場合、アリはアブラムシを守り、アブラムシは増え続けて、植物は枯れてしまおうだろう。逆に、植物の出す蜜の量が魅力的だったら、アリは植物を守り、アブラムシを排除するであろう。そうなれば、植物は元気に育つ。

どちらに転ぶかは、アリに対する魅力次第だから、植物とそれにつきアブラムシは、人知れずアリとの共生をめぐって熾烈に競争しているのである。さらに、同じ植物に、違う種類のアブラムシがいる場合には、アリは、植物の蜜かアブラムシの甘露かを選ぶのと同じように、どちらかのアブラムシを選ぶ。アブラムシどうしにも、アリとの共生をめぐる競争があるのだ。

同じ植物につきアブラムシでも、種類が違えば、排泄する甘露の成分も異なる。そのため、アリとの関係にも違いが出る。Ⅲ、ソラマメにつきアブラムシでは、黒い小さなマメアブラムシは、ソラマメの花外蜜腺よりも魅力的な甘露を出し、アリの恩恵を受ける。逆に、大きな緑色のソラマメヒゲナガアブラムシの甘露は、ソラマメの蜜に比べて魅力がいらず、ソラマメにきたアリは、このアブラムシを殺してしまう。このアブラムシが生きて残るためには、ソラマメやマメアブラムシが魅力的な蜜でアリを誘引するのに対抗して、何らかの方法でアリから身を守る工夫が必要になる。実際には、アブラムシのなかでアリと共生関係を持つ種類は、むしろ少数派で、種数にして全体の四分の一ほどである。それ以外は、甘い甘露を排泄するのにもかかわらず、アリとの共生関係は持たない。むしろ、アリとの共生関係を積極的に避けようとするものも多い。自分の周りにアリが寄ってこないように、なるべくまずい甘露を出したり、甘露を遠くに飛ばしたり、角状管という尾部背面にある突起からアリの嫌がる汁を出したりと、さまざまな工夫でアリを遠ざけている。

多くの生物が共存するなかで、競争と共生はⅣである。一つの争いは、共生へのきっかけとなる。アリがアブラムシを天敵から守るといふ共生は、アブラムシと天敵の争いがあるからその共生である。この共生は、アブラムシとアブラムシを食べる天敵との軍拡競争の中で生れたい一つのドウメイイなのだ。

そして、一つの共生は、また新たな争いの種をまくことになる。アリはアリどうしでお互い餌を出すアブラムシをめぐって競争する。また、蜜を出す植物やアブラムシたちの間には、アリを誘い守ってもらうための競争が起こる。そんな競争の中で、アリと共生するだけが、アブラムシの生き方ではなくなる。

アブラムシには不要な甘露をアリが欲しがり、アリはアブラムシを守ることができる。これは、共生のためにはむしろ好都合に見える。Ⅳ、手放さず、幸せな共生関係はなかなか成り立たないものだ。

しかし、皆が同じ基準で、共生に向けてしゃにんに競争している社会も、決していいものではないかもしれない。競争に勝たなければアリに殺されてしまふのなら、そんな競争にワズラわされるより、いっそのこと甘い甘露は遠くに捨ててしまふのもいいだろう。なにも両刃の剣のような危ないア

リと無理につき合わなくても、アリとは関わらずに暮らすのも、また一計である。

人間の関係と同じように、生物どうしの関係も、目の前の相手だけでなく、背後にある事情や、周囲の状況に左右される。なんとも複雑である。しかし、一筋縄ではない状況だからこそ、画的な基準での競争に縛られない多様な生き方が、成り立つのだともいえる。共生をめぐる競争するのもよし、別の生き方を探すのもまたよし。そんな進化の過程の自由さが、多様な生物どうしのダイナミックな関係を形づくっている。(坂田宏志「共生と競争のジレンマ」による)

問一 傍線部ア～ウを漢字表記に改めた場合、これと同じ漢字を用いるものを、次の各群の①～④からそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが 11、イが 12、ウが 13。

- | | |
|--|---|
| <p>ア コウリツ</p> <p>① コウキョウの施設に入る</p> <p>② ネココウ序列で決める</p> <p>③ コウモクをなす口でだます</p> <p>④ 映画はコウヒョウを博した</p> <p>⑤ 薬のコウカを期待する</p> | <p>イ ドウメイ</p> <p>① メイヤクをかかわす</p> <p>② メイハクな証拠を示す</p> <p>③ 古都のメイノサツを訪ねる</p> <p>④ 皆にメイワクをかける</p> <p>⑤ 会社のメイウンをかける</p> |
| <p>ウ ワズラわされる</p> <p>① 子孫がハンエイする</p> <p>② ホンサイを趣味とする</p> <p>③ 適切なハンダンが下された</p> <p>④ ホンノウを絶つて悟りを開く</p> <p>⑤ 現場に資材をハンニウする</p> | |

問二 傍線部A「ギブ・アンド・テイクの共生関係」とあるが、本文で挙げられている共生関係の事例の説明として最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 14。

- ① ソラマメヒゲナガアブラムシは、アリの好みの甘露を出すことでアリから守られている。
- ② マメアブラムシの甘露はアリの幼虫の栄養になり、アリの種の保存のために役立っている。
- ③ カラスノエンドウは甘い蜜を出すことで、マメアブラムシに必要な栄養を供給している。
- ④ マメアブラムシは魅力的な甘露を出すことにより、アリに害から守ってもらっている。
- ⑤ ソラマメヒゲナガアブラムシはアリの嫌がる汁を出してアリからソラマメを守っている。

問三 空欄 Ⅰ、Ⅳ に入る言葉として最も適切なものを、次の①～④からそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。(ただし、同じものを二度以上選ばないこと。) 解答番号はⅠが 15、Ⅱが 16、Ⅲが 17、Ⅳが 18。

- ① それでも
- ② それどころか
- ③ せいぜい
- ④ なぜならば
- ⑤ たとえば

問四 空欄 Ⅹ に入る表現として最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 19。

- ① 水と油
- ② 雲泥の差
- ③ 二律背反
- ④ 紙一重
- ⑤ 矛盾

問五 傍線部B「二両刃の剣」のような危ないアリとあるが、具体的にはどのようなことか。その説明として最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 20。

- ① アリは好みの蜜を出す植物と共生する生物に危害を加えるとともに、その植物を枯らしてしまふこと。
- ② アリは自分たちの身を守るためだけに、共生関係にある生物を守るために天敵を攻撃すること。
- ③ アリが好む蜜や甘露を出す生物はアリによって守られるが、そうでない場合は排除されてしまふこと。
- ④ アリに天敵から守ってもらう共生関係を築くには、アブラムシ同士で競争をしなければならぬこと。
- ⑤ アリと共生するには激しい競争が必要があり、それは生命が危険にさらされる宿命を負うこと。

問六 本文の内容と合致しているものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 21。

- ① 他の動物との共生や競争という生物同士の関係は大変複雑なものであり、生物の進化の過程でその関係はダイナミックに展開していく。
- ② アリとの共生をめぐる競争は、植物とアブラムシとの競争以外では、アリとアブラムシの間と、アブラムシどうしにだけ起こっている。
- ③ アブラムシにとってはアリと共生するよりほかに生き方がないで、アブラムシたちの間にアリに守ってもらうための競争が起きてしまふ。共生に向けてしゃにんに競争するよりは、共生をあきらめて競争をやめてしまふ方が、生物としてははるかに望ましい生き方である。
- ④ 生物どうしの関係は、人間の関係とは違って、目の前の相手に左右されるだけでなく、背後にある事情や、周囲の状況にも左右される。

試験問題は次に続く。

メ モ

三

次の文章を読んで、後の問一～六に答えなさい。

一九八一年の秋、私はユーゴスラビア北西部を旅した。リュブリャナという、河畔の町を訪れた。観光地としては、ほんとうに美しい町だが、居心地は良いとはいえない。第一、ホテルのサービスがひどい。外国人観光客は、政府の斡旋するホテルにしか泊まらない。自由競争がないものだから、接客業としての自覚がないのだ。部屋の湯が出ない、と苦情をいったり、従業員は夕方になって皆、帰ったので、明日までどうしようもない、といわれたりした。

町のレストランやカフェで働いている人々も、いたって無愛想だ。ひよっとして、この国の人たちは

X

と勘繰ったものだ。

教員、ア タイサイしたが、もっともユーゴスラビアの人たちと触れ合った気もしないまま、私は帰途についた。当時、暮らしていたイタリアに向けて、国際列車に乗ったのである。

ユーロッパの列車は、コンパートメントという個室で仕切られている。国際列車ともなると、国籍も違ふなら旅の目的も違ふ者同士、同じコンパートメントに乗り合わせることになる。

その時、相席したのは、やはり旅行中の大学生二人、それに太った中年紳士と、三十歳前後の小柄な男性だった。

ドイツから来たという学生二人とは同じ学生同士、すぐに気が合って、どこの国がよかったか、どの都市にもう行ったか、などと旅行談議に花が咲いた。時に中年紳士も会話に口を挟み、私たちは和気あいあいと話し続けた。

ただ、窓際に座った小柄な男は、ジャンパーの襟を立てて流れる景色をじっと見つめているだけで、会話には加わらない。英語ができないのだから、と私は気にもしなかった。

列車がユーゴスラビアを出る前に、ドイツ人学生も中年紳士も降りていった。手持ち無沙汰になった私は実際に席をすらせ、小柄な男と向かい合う形となった。

列車はイタリアとの国境に向かって走りだした。窓の外は、秋色のキョウリョウ地帯が広がっている。

「あんなには幸せだね」

突然、正面の男が誰の強い英語でいった。

私は驚いて、その男を見た。髭剃り跡が削げた頬に黒々と残っている。黒みがかった瞳は東欧系の人間を思わせた。

- 13 -

- 12 -

男は、誰かに聞かれるのを怖がるように、素早く廊下に目を遣った。

「この世界には、観光旅行もできないで、明日、死ぬかもしれない脅えながら、必死で生きている人間もいるんだ」

彼は暗い口ぶりという、腰を浮かせた。荷物ひとつ持ってなかった。

列車はイタリアとの国境近くの寂しい駅に止まるようとしている。立ち去りかけた男に、あなたはどの国の人ですか、と聞いた。

アルバニア、と答えると、彼は何かに追いついてられるように廊下に消えた。

男の正体はわからない。反政府活動をしているアルバニア人かもしれない。それともユーゴスラビアのアルバニア人で、何かの政治活動に携わっていたのかもしれない。国境の前で消えたのは、パスポートを持ってなかったか、密出国しようとしたせいではないか。そこまで

Y

ではないにしても、何かしらの国の重圧の下で生きている人間だった可能性が高い。呑気に観光談議に興じていた私たちの話を、どんな想いで聞いていたことだろうか。

あれから十三年が過ぎた。ユーゴスラビアは民族闘争の戦火に喘いでいる。彼がそこにかかわっているかどうか知る術もない。

だが、現在の平和な日本にいて、世界各地の戦争の話や耳にする時、あの男の顔が頭に浮かぶ。

そして私は、決して忘れてはいけない、と思うのだ。世界には、平和をキョウジュしている幸運な人もいれば、苦しんでいる人たちもいる。だが、私たちは皆、同じ国際列車に乗り合わせているのだ、ということ。

〔坂東眞砂子「国際列車で出会った男」による〕

- 14 -

問一 傍線部ア～ウを漢字表記に改めた場合、これと同じ漢字を用いるものを、次の各群の(a)～(e)から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが 22、イが 23、ウが 24。

- | | | | |
|---|------|-----|----------------|
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ | 情報をティキョウする |
| ア | タイサイ | イ | お互いキョウツウして歩み寄る |
| ア | タイサイ | イ | キョウラク的な生き方 |
| ア | タイサイ | イ | 全員にキョウツウする意見 |
| ア | タイサイ | イ</ | |

問三 傍線部A「私は驚いて、その男を見た」とあるが、「私」はなぜ「驚い」たのか。その理由として最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 26。

- ① その男が突然話した英語の訛りが思った以上に強かったから。
- ② 英語が分からないのだからと思っていた男が突然英語で話したから。
- ③ その男が英語を話しているにもかかわらず東欧系の人間だったから。
- ④ 密出国しようとしている人間のわりには綺麗に髭が剃られていたから。
- ⑤ 他人に話を聞かれてはいけない立場の人間なのに話しかけてくれたから。

問四 空欄 Y に入る表現として最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 27。

- ① エキゾチック
- ② エコノミック
- ③ ドラマチック
- ④ ダイナミック
- ⑤ アカデミック

問五 傍線部B「こんな想いで聞いていたことだろうか」とあるが、どのような「想い」が考えられるか。その説明として最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 28。

- ① この人たちが国の重圧の下で生きている人間の苦悶を理解してくれるはずだという希望。
- ② パスポートをもって自由に国境を超えて旅行をすることができると対する嫉妬。
- ③ 生きるか死ぬかという現在の状況を脱する計略を立てるヒントを得たいという強い願望。
- ④ 世界の情勢の真実を知ることなく呑気に観光旅行をしている人たちに對する怒りと嘲り。
- ⑤ 旅行で世界を知った気になっているだけで真実が見えていない人たちに對する優越感。

問六 傍線部C「私たちは皆、同じ国際列車に乗り合わせている」とあるが、どういうことを筆者は言おうとしているのか。その説明として最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 29。

- ① ヨーロッパを走る国際列車は多くの国境を超えるので、さまざまな国の人たちが乗り合わせるということ。
- ② 乗った列車が国際列車であれば、紛争のある危険な国を通ることもあり得ると覚悟すべきだということ。
- ③ 我々が知り得る世界とは、海外旅行でたまたま出会った人々から得た知識のようなものだということ。
- ④ 地球とは国際列車のようなものだから、乗り合わせれば我々は嫌でも付き合わなければならないということ。
- ⑤ 様々な国の事情を背負った人たちが、地球という共通の場でそれぞれに同時代を生きているということ。